

市では高齢者が住み慣れた地域で安心して生活できるように、高齢者等見守りネットワークを推進しています。この一環として、8月1日現在で64の民間事業者や団体と高齢者などの見守りに関する協定を締結しています。協定では、協力事業者が店舗での接客や配達での訪問などの日常業務の中で、高齢者などの様子に異変を感じたときに、市役所などへの通報をお願いしています。この協定を通じて、さらなる高齢者への迅速な支援や安否確認につなげています。

高齢者の異変を感じる具体例

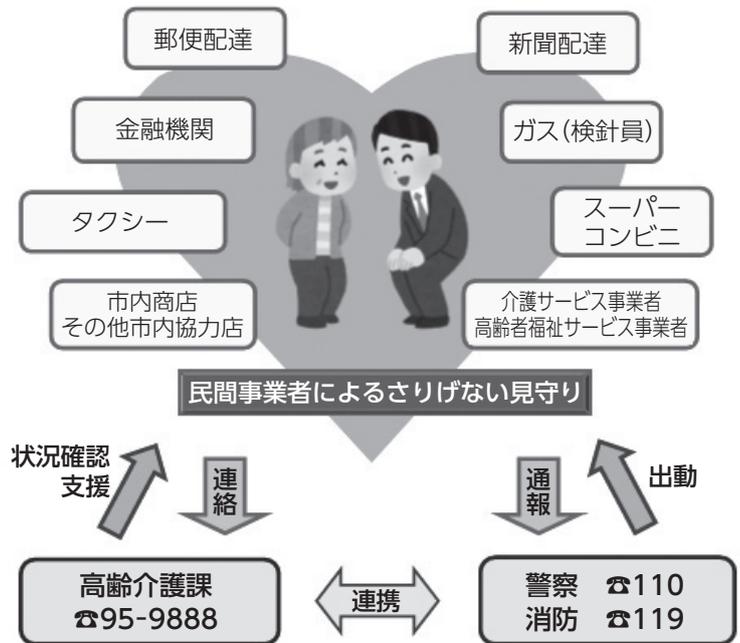
- ・ポストが新聞や郵便物でいっぱい
- ・洗濯物が何日も干しっぱなし
- ・何回も同じ手続きに訪れる
- ・同じ商品を頻繁にたくさん購入している
- ・夏なのに冬の服を着ている
- ・裸足で歩いている
- ・同じところを行ったり来たりしている など

事業者の募集

更なる見守り体制の推進のため、協力できる事業者を募集しています。費用はかかりません。高齢者などが安心安全に住み慣れた地域で、長く過ごすことができるよう協力をお願いします。興味のある事業者は、問い合わせください。

※市内で高齢者の日常生活圏で事業活動を行っていることや、日常業務において高齢者と接する機会が多く、協定書に定める見守り活動の趣旨を理解し、円滑に実施できる事業者が対象です。

高齢者等見守り協定イメージ



碧南の歴史へのいざない

☎ 文化財課 ☎48-6602

No.88 空中写真散歩(6)

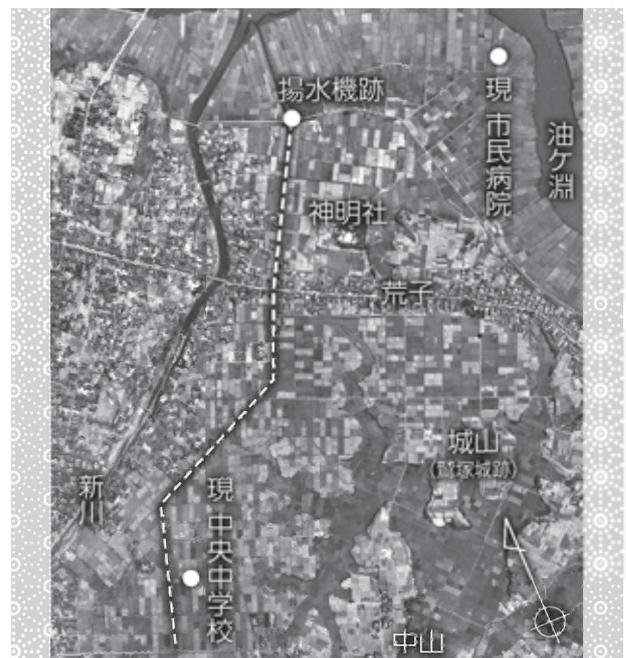
～中央中学校に西接するカーブの道～

中央中学校の西に接する道は、右、左にカーブしながら市営新道住宅の辺りまで北行します。このようにカーブするのは、明治時代にできた平和用水と関わりがありました。

江戸時代、北側の入海はやがて油ヶ淵になり、宝永2年(1705)に新川が開削されました。東西に横断する街道には、荒子の集落が発展しました。また高低起伏がある地勢に畑地が主に広がりましたが、農家は耕作に不便を感じていました。

そこで明治時代に日露戦争の平和記念として、耕地を整理し用水を引く事業が行われ、明治41年(1908)に完成しました(平和用水)。揚水機によりかんがい排水の便は向上し、生産も増加しました。

今回紹介したカーブの道は、この平和用水の幹線水路であった名残を今に伝えているものです。



△米軍1948年撮影/国土地理院提供